

刺しす！ 世相を切る

参院選挙について

参院選が告示され、いよいよ、主権在民の担い手である国民が、国政に参加し、わが国の将来を勘案し、その真価を問われる時が来た。日本が民主国家だというわけだが、果たして今の日本の政治のありようを見ていると、全く政治以前（つまり、法治国家以前）の、社会的問題が余りにも多い、そんなこのごろである。なぜ、そうなったかについては、また、別途考察するが、ここでは、参院選で議員を目指す人のあり方、主権者である国民について考えてみたい。

1. 代議士となる人へ

国の政治を良くしようというわけだから、党利党略、地元地域のことばかりを考えて、票稼ぎをするのはやめてもらいたい。国会は立法府であるから、政治的な問題に注目し、日本の将来のための法律を作ることと専念してもらいたい。

法律を作るためには、専門的なスタッフが必要だ。議院手当てはそのための費用である。議員の私的な冠婚葬祭の付き合いのための金ではない。国会で議員立法のできない、立法しようとししない人は代議士になるべきではないし、なる資格もない。とりわけ、世襲議員の質の悪さには目に余る。親の威光を後ろ盾に、議員手当てが目当ての議員、マスコミに乗り、名前の売れたことを能力と勘違いしているタレント議員、学歴が問題という訳ではない。官庁の作成した文書を読み上げるだけの各省庁の大臣、ましてや、読み間違える大臣、その記述の内容を読んでいない代議士など、そして、国会で議決するときの票数だけのための代議士、こんな代議士が日本を駄目にしている。

議員は、国を、そして、社会をよくするための立法をし、その姿勢を示すことが、国に対する責務だ。野党といわれる集団は、与党、官庁の揚げ足ばかりを取っていないで、国会で与党と対等に議論出来る自分の立場からの議案を提出すべきだ。相手の欠点ばかりをほじくり出して、対案を出さずに、討議の時間をないがしろにしている。議案は他人任せも良いところ。官公庁の作る資料について議論するのであれば、その対案を明確にしなければ、犬の遠吠えと同じだ。自分の案も示さない、出せない、出しても自分達だけがよいような身勝手な案のようでは、そんな野党は全く必要ない。

2. 自民党へ

自民党の内閣の質の悪さは、大臣の答弁を見てみれば、よく分かる。何の専門的な知識もなく、そして、議員立法もしたこともないのに、のうのうと大臣の席についている。行政機関の霞ヶ関の言いなりだ。功労賞まがいの大臣の椅子、何の専門的な知識もなく、実務の内容も知らず、官庁の作った資料を丸読みの国会答弁をする大臣。与党の議員であれば、国の将来をどのようにするのかを具体的に立法し、そして、官公庁の仕事にあり方を誘導していくような政策作成に力を発揮してほしい。

3. 野党へ

野党は、自分の主張がいかにも正義であるかのごとく、自民党の欠点を突き、上げ足取りに終始している。国会での討議にしても生半可な議論で質問し、その質問も前もって文面で出したものであり、これに、官公庁がのらりくらりの答弁をつくり、大臣がこれを読み上げるという筋書き通りの、国会の時間つぶしに終始している。国民には、彼らが、これで、議員手当てがもらえんと思っているとしかみえない。官公庁のやり方に疑問があるのであれば、自分達の立場でなら、こうするという対案を持って議論に望むべきだ。相手の揚げ足とりで、国の政策が改善されたという実績があれば、これを上げてもらいたい。国会の会期を延長し、時間切れで、結局は与党の言いなり。今の分裂野党では、自民党とと

もに、民主主義の体裁を整えるだけの存在で、自民党にとっては、ある意味では、真に歓迎すべき存在なのかもしれない。そこに国民不在の、党利党略に走っている野党の姿が見え隠れしている。超党派で議員立法を作るという流れを是非、一日でも早く確立してほしい。

とりわけ、未だ、道半ばだという東北大震災の大災害、東北地方で選出された議員は、超党派で、復興促進の議案を立法して欲しい。東京オリンピックの陰で、いまだ、際涯復興に乗り遅れ、泣いている地域を如何するのか、議論してもらいたい。

4. 国民の責任

こうした、国会議員選挙の実態を見ていると、まことに国民の責任は大きいと思われる。地域優先、国の予算を地元還元する、党利党略、果ては、議員の私的な付き合いのための議員手当てにも目をつぶる、教養や知識の習得よりも、スポーツをしたり、マスコミのお笑いや、時間つぶしの番組で楽しい時間が持てれば、それでよい、・・・これらは、国民は余り政治のことに頭を突っ込まないで欲しいという、どこかの独裁政治、あるいは、専制政治がまかり通っている国ではないが、そうした国とどこか似ている。私は、そうした国で数年、暮らしてきた経験があり、今の与党の国民操作のビジョンの結果がどうなるのか身に浸みて感じてきた。この自民党と、それにおんぶをしている政党の戦略に洗脳されずに、確かな未来を見つめて、国の政治にかかわる人を選択してほしい。

国民は、政治家を国会に送り出す責任と努めが課せられている。代議士を選んだら、その人が、どんな政策を掲げ、議員立法に努力しているのかを冷静に見ていく必要がある。政治家を選んでいるのは、国民であることを忘れてはならない。

最後に

党利党略にはしり、自分達の身分を自分達で決め、自分達の手当て・報酬を自分達で決めているような代議士は、もう要らない。国の予算は、特定の上流社会の人達の金でも、資産でもない。それは、われわれ政治的に無力な国民の汗の結晶であり、税金なのだ。

われわれ国民、一人ひとり、如何すれば、われわれの先祖が築き上げた、素晴らしい日本の国の文化を守り、そして、それを次の世代に伝承していけるのか、今、一度考え直してみてももらえないだろうか。

2019.07.14